

## 第59回「前島密賞」を受賞

研究開発推進部<sup>†1</sup>の柴藤 稔氏、サービス&ソリューション開発部<sup>†2</sup>の磯田 佳徳氏、飯塚 真也氏、辻野孝輔氏、NTTメディアインテリジェンス研究所の東中 竜一郎氏は、「音声エージェントサービス『しゃべってコンシェル』の開発・実用化」への功績が認められ、2014年3月25日に公益財団法人 通信文化協会より第59回「前島密賞」(研究開発)を受賞しました。

前島密賞とは、通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績のあった者に、公益財団法人 通信文化協会から授与されるものです。

ドコモは、昨年の「ISDB-Tmmマルチメディア放送方式の開発・実用化」に続いての受賞となりました。

受賞対象となった「音声エージェントサービス『しゃべってコンシェル』の開発・実用化」は、ユーザが携帯端末に話しかけることで、携帯端末の各種機能(電話、メール、スケジュールなど)を活用したり、さまざまな専門情報(地域情報、リアルタイム情報、デジタルコンテンツなど)を検索したりすることができるものです。2012年3月にサービスを開始し、2012年6月には、「しゃべってコンシェル」の特徴的な機能として、ユーザの質問に対し直接回答候補を提示する“知識Q&A”機能を追加しました。

「しゃべってコンシェル」のサービス設計にあたっては、自然言語ユーザインタフェース、および豊富なデータベースの2点を重視し、開発が進められました。1点めの自然言語ユーザインタフェースは、ユーザの多様な発話からユーザの意図を汲み取り、適切なアプリケーションの起動や、情報検索を実行します。2点めの豊富なデータベースにより、ユーザの求めている情報、例えばニュースや天気、地域情報、デジタルコンテンツなどの情報を適切に返すことができるようになりました。これらの機能を実現するにあたり、クラ

ウド上でのさまざまな音声言語処理技術を活用しています。具体的には、①ユーザの自由な発話を認識するための100万語レベルの大語彙に対応した音声認識の実現、②自然言語による発話内容を解析し、ユーザの求める機能・サービスを推定する意図解釈技術、③ユーザの質問に対し大規模な知識データベースや検索エンジンと連携して、ピンポイントに回答を探索・推定する質問応答技術、という3つの技術特徴を有しています。Apple社のSiri<sup>\*1</sup>やヤフー社のYahoo!音声アシストなど、他にも音声エージェントアプリケーションが展開されている中、知識Q&Aのようなユニークな機能により、日本ならではの多種多様なコンテンツの中から、しゃべるだけでほしい情報にアクセスする機能や、画面内のアバターの動き・声・セリフがキャラクターごとに変化し、好きなキャラを選んで楽しく会話できる機能が受け入れられました。2013年8月には1000万人を超える人に利用され、アクセス数も4億回を超えるまでに至っています。以上のようにICT(情報通信テクノロジー)に係わるイノベーションを提案し、ネットワーク社会の進歩発展に顕著な功績があったと認められ、今回の受賞となりました。



\*1 Siri：米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標。

†1 現在、R&D戦略部。

†2 現在、サービスイノベーション部。